

このページは、小・中学生に向けて梅光学院大学子ども学部子ども未来学科(地域共生ゼミ)の学生が作っています。

※イラスト 松山北斗さん

しものせき キッズページ



ShiMoBiに行ってみよう!!

ShiMoBi... 下関市立美術館



美術館未公認ゆるキャラ Shimobin (しもびん)



▲桂ゆき《物価高》1967年…大根を持った生き物たち!

赤間硯は、下関市が誇る伝統的な工芸品です。展示会では堀尾卓司さんと信夫さん父子の硯が紹介されています。現在は、息子の信夫さんが技を守り伝えると共に独自の発想でさまざまな硯を作っています。卓司さんの作る硯は自然をモチーフにした大胆で個性のある形が特徴です。それに対して、息子の信夫さんの作品は丸みを帯びた柔らかな形が印象的です。硯には一つ一つタイトルがあり、タイトルに沿った形になっているんですよ。堀尾さんがどんな考えを持って制作したのかを想像しながら見て回るのも楽しみ方の一つですね。

その1!



6月26日(日)まで開催中の展示会「特集・まるっと工芸」ガレ、赤間硯、現代ガラスの巨匠たち／新収蔵品紹介」を紹介します!

桂ゆきは前衛の女流画家として戦前から活躍した洋画家です。和紙を貼った作品や、なかにはコルクや布を板や襖やドアに貼った作品も! いろいろな作品が10点ほど並んでいましたが、私たちが特に心ひかれたものが「物価高」です。画面から飛び出ているように描かれた大根は実は絵で、和紙を貼った上に描かれた生き物たちは平面的に見えるけど実は盛りあがっています。作品の技法などに注目すると、新しい発見ができました。みなさんも絵の中の不思議を探してみよう!

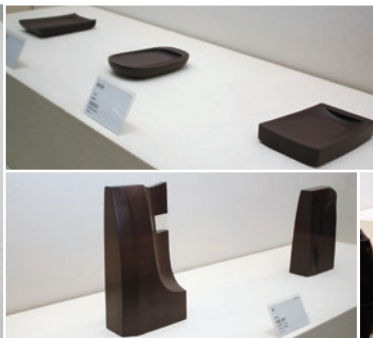
その2!



「とうもろこし」という作品には、模様はどこかに、カマキリが隠れているよ! 探してみよう!

赤間硯 展示室でたまたま作品を見に来た堀尾信夫さんに会いました。「作品は自分の子どものようなもの。父は体が弱かったのに、よくこれほど大きなものを彫ったと思う」と語ってくれました。

堀尾卓司《とうもろこし》1952年



赤間硯

展示室でたまたま作品を見に来た堀尾信夫さんに会いました。「作品は自分の子どものようなもの。父は体が弱かったのに、よくこれほど大きなものを彫ったと思う」と語ってくれました。



6月号の編集記者(左から) 田名龍ノ介さん、菜原梨沙さん、中野優さん と堀尾信夫さん(左から2番目)。

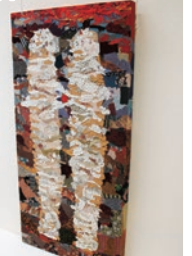
- ① 走らない
 - ② 展示室内の写真撮影は控える
 - ③ 大きな声でのお喋り
 - ④ 携帯電話は電源を切るかマナーモード
- ☆館内では、次のことを気を付けよう!

下関市立美術館 市内長府黒門東町
開館時間 11:00~19:30(午後5時
※月曜日休館)

桂ゆきの作品たち



《おいも》1987年



《コラージュ(ふすま)1》